

のり海況速報 第8報 (23-8)

平成24年 1月13日発行
 千葉県水産総合研究センター
 東京湾漁業研究所
 千葉県農林水産技術会議

資料 のり海況調査 1/10：内湾(わかふさ)、内房北部(ふさみ丸)
 関東・東海海況速報、東京湾口海況図・ふさなみ航走水温データ(1/4-13)
 拓南観測データ(11/1-1/10)
 モニタリングポスト(1/10：国交省関東地方整備局)

【水温・塩分の状況】

内湾の表層水温(図1)は前報(12月19-20日)よりさらに3℃下がり、ほぼ10～11℃台になっています。一方、12月中旬頃に内房北部海域まで流入した沖合水は下旬頃から小康状態が続いているため、内房北部の表層水温はほぼ11～13℃台になっています。

しかし、東京湾口への沖合水の流入は依然継続しており、内房北部縦断面では(図2)浦賀水道航路入口付近の15m以深に塩分34以上の水塊がみられ、岸側で湧昇傾向を示していますので、この動きに注意が必要です。

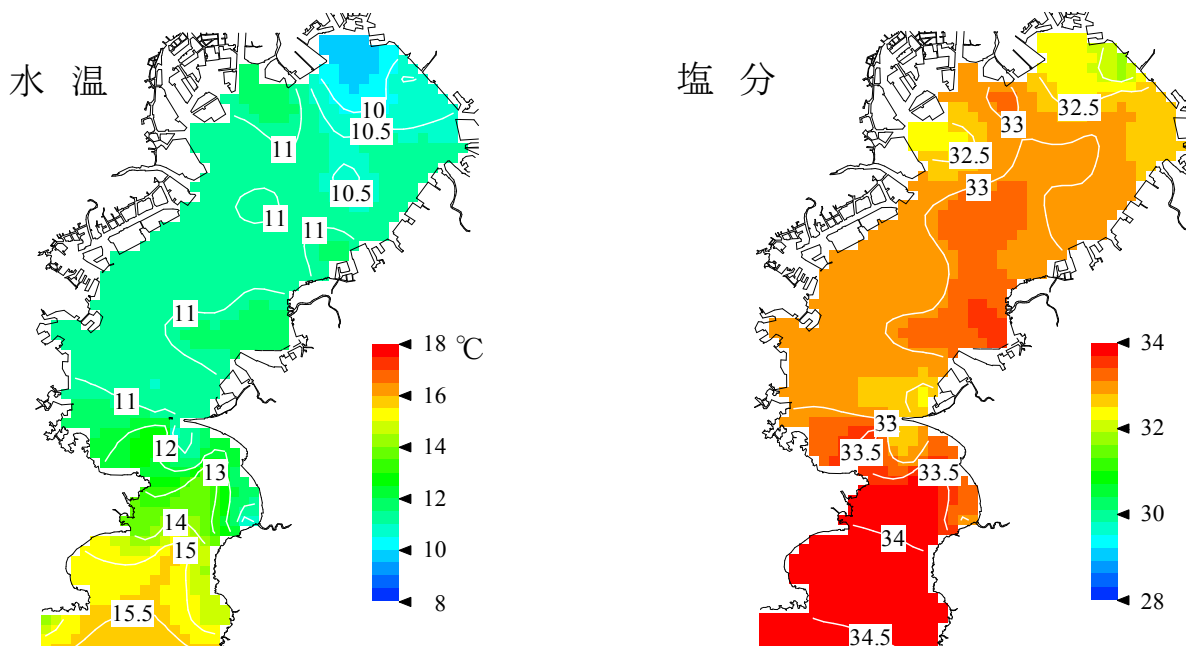


図1 表層の水温・塩分分布 (内湾～内房北部：平成24年1月10日)

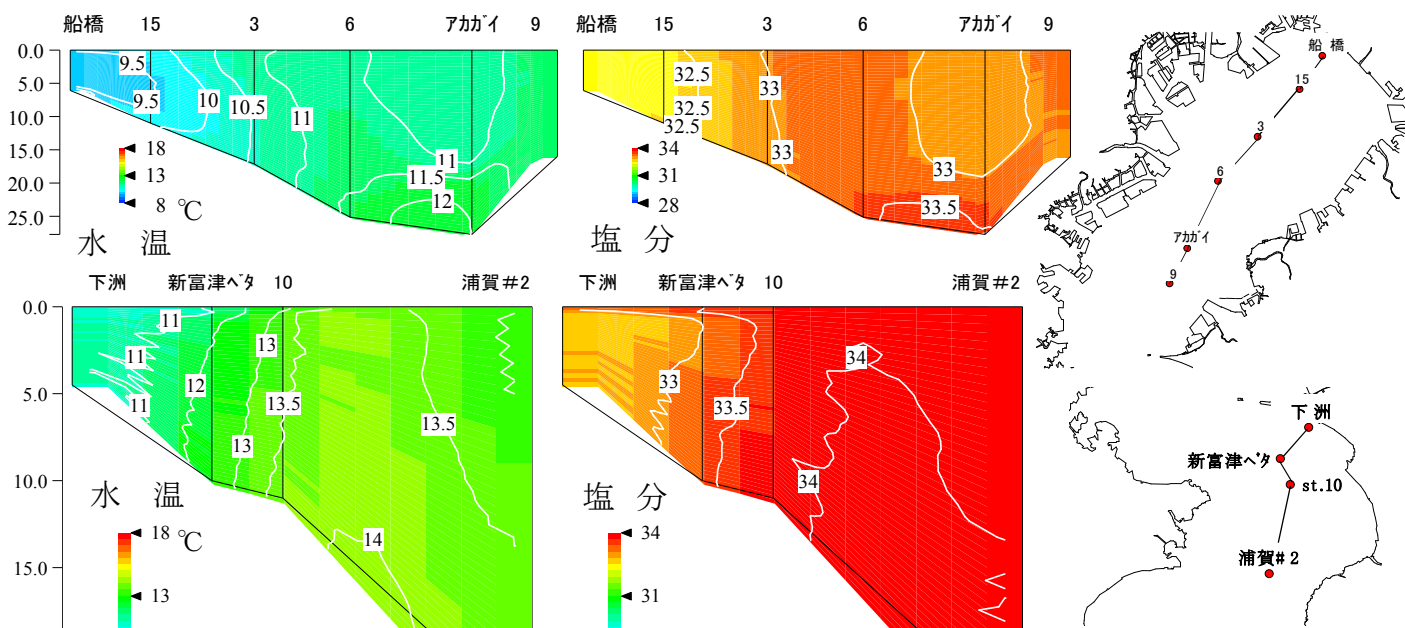


図2 断面の水温・塩分の鉛直分布(平成24年 1月10日)

【赤潮・栄養塩の状況】

赤潮はアクアライン以北の千葉県側で発生し、千葉北部地区のノリ漁場周辺ではpHは8.5～8.6に上昇、透明度は2m前後まで低下し、水色も褐色を呈するほどのやや濃い赤潮状態です。

優占種は小型ケイ藻のスケルトネマで、最もノリの色落ち被害をもたらすユーカンピアやリゾソレニアもみられ始めています。

表層の栄養塩(図3)は窒素(DIN)は全域で十分維持されていますが、リン(DIP)がかなり少なくなっています。各地先(図4)もノリの色素低下が懸念される濃度まで減少していますので、今後の動向には注意が必要です。

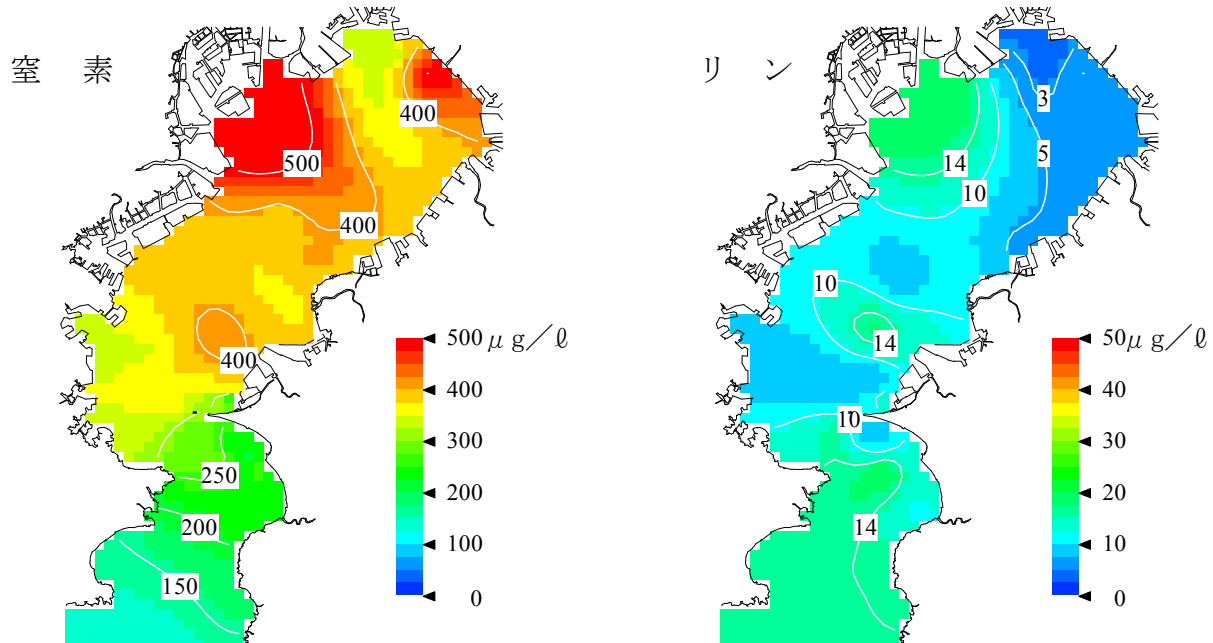


図3 表層の栄養塩濃度の分布 (内湾～内房北部：平成24年1月10日)

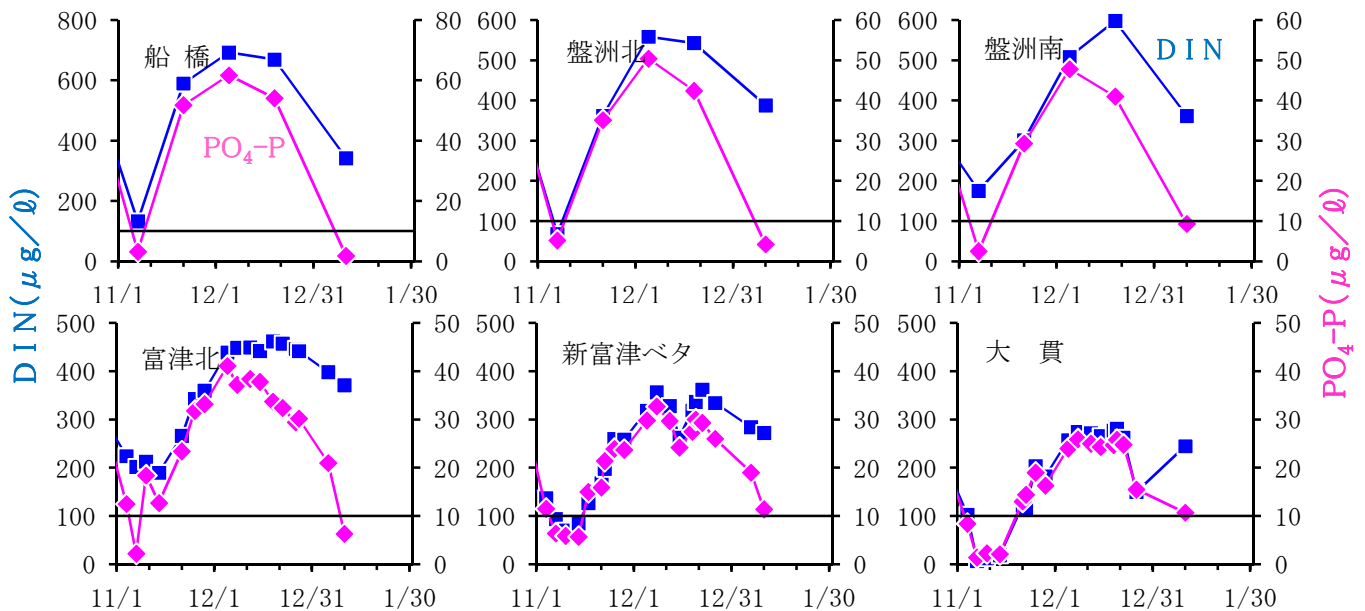


図4 各地先における栄養塩濃度の経過 (表層：平成23年11月1日～24年1月10日)
(図中の横線はノリの色落ちをひき起こすとされる目安の濃度)

川養殖場水温予報のお知らせ

今年も、各川養殖場(三番瀬, 盤洲北部, 盤洲南部, 富津岬北, 富津岬南)について、5日先まで表層水温を予報しています。パソコンまたは携帯の検索サイトで”川養殖場水温予報”で検索するか、下記アドレスを直接入力してご覧ください。

パソコン：http://wwwp.pref.chiba.lg.jp/pbcbisuishi/cbtk/04tk-yohou/main_frame.html

携帯：http://wwwp.pref.chiba.lg.jp/pbcbisuishi/cbtk/04tk-yohou/mobile_forecast.html